

各位

日本ダルクローズ音楽教育学会  
第58回研究例会および総会の開催のご案内

若葉が美しい季節になりました。皆様、日々ご精励のことと思います。  
さて、第58回研究例会および総会を下記の通り開催します。多数の参加者により、  
研究協議が深められるよう、ここにご案内いたします。

記

- **開催日** 2025年6月15日(日)  
受付開始 12:30 / 例会開始 13:00 / 終了予定 16:00
- **開催方式** 対面参加とZoomによるオンライン参加のハイブリッド方式
- **対面参加会場** 東京藝術大学(東京都台東区上野公園12-8)  
JR上野駅(公園口)または鶯谷駅下車 徒歩10分または7分
- **内容** 研究発表、および基調提案
- **参加費** 会員 1,000円  
臨時会員 1,500円  
学生(会員・臨時会員ともに) 500円
- **申し込み** 参加希望者は、**6月11日(水)までに、  
下記の①②の手続きにて申し込みをお願いいたします。**  
(事前申し込みのみ、当日受付はなし)



【会場地図】

①  
②  
とも必要

① **参加費の振込**

(当日、会場で参加費を支払うことはできません。事前の振込をお願いします。)

**郵便振替口座： 00170-3-60580**

(年会費と同じ払込取扱票、または、ゆうちょダイレクトをご利用ください)

② **メールで参加を申し込む**

メール(学会事務局)： dalcroze.gakkai@gmail.com

〈メール記載内容〉 ① 参加者氏名 ② 参加方法(対面参加/オンライン参加)

③ 参加の区分(正会員、臨時会員、学生会員、臨時学生会員) ④ **会員番号**

⑤ **緊急連絡先**

- ・ オンライン参加の方には、6月14日(土)の夕方までに、Zoom IDを通知します。
- ・ なお、Zoomの使用法などにご不安のある方、学会事務局へご連絡ください。
- ・ メールが使えない方は、お電話にてご連絡ください。080-5589-5131(事務局、高倉)

～ プ ロ グ ラ ム ～

- ◎ 開会、あいさつ (13:00～13:05) ♪司会者：笹井邦彦（東京家政大学）
- ◎ 研究発表 (13:10～13:40)
- ◎ 基調提案 (13:50～15:20)

(研究例会終了後)

- ◎ 会員総会 (15:30～16:00)

\* \* \*

【研究発表】 13:10～13:40

ジャック＝ダルクローズの学校音楽教育観とフランスの学校音楽教育  
——ラヴィニャックの音楽教育観からの影響を中心に——

松井いずみ

ジャック＝ダルクローズは19歳の時にパリに赴き、ラヴィニャック（Albert Lavignac, 1846-1916）のもとで音楽理論等を学んでいる。本研究では、その頃のフランスの音楽教育事情におけるラヴィニャックの音楽教育観を明らかにした上で、ジャック＝ダルクローズがラヴィニャックから影響を受けたであろう部分について考察していく。

フランスでは1882年に音楽教育が初等教育の必修科目となったが、教育のあり方についてさまざまな議論が交わされており、ジャック＝ダルクローズはその「混乱し錯綜した」<sup>1</sup>状態を認識していたと推測できる。実際には学校現場で教える教員の多くが音楽教育の専門的訓練を受けていないことや、音楽を無駄な活動と見なす世間の偏見により、音楽教育は「理論上は義務教育でありながら現実的にはほとんど実施されていなかった。」<sup>2</sup>とされている。また、フランス公教育省が7名の専門家に意見書を依頼した『初等学校における歌唱教育に関する報告書』<sup>3</sup>からは、音楽の専門家の間においても教授法に関する議論や対立が生じていたことを読み取ることができる。報告者として、サン＝サーンスやダンノーゼルをはじめとする作曲家や初等教育の視学官などが名を連ねており、その中でそれぞれが音楽教育を開始する時期や教育内容、指導法、当時注目されていたガラン＝パリ＝シュヴェ法の是非、教員養成のあり方などについて異なる見解を示している。

このような状況のもと、ラヴィニャックも1905年に初等学校向けの教科書『学校音楽の基礎入門』<sup>4</sup>を出版しており、その内容を分析することで、彼の音楽教育観を明らかにすることができる。さらに、同じ年にジャック＝ダルクローズはスイスのゾロトゥルンで開催された音楽教育者会議において学校音楽教育改革について講演を行い、自らの考えを述べている。これらの内容を包括的に読み解くことにより、「耳を教育し、音と音の関係や組み合わせを分析把握させる正しい方法を選び出す」<sup>5</sup>ことや、

「音階、全音と半音のあいだに存在する関係」<sup>6</sup>を重要視することなど、ラヴィニャックとジャック＝ダルクローズの音楽教育観には基本的な部分に多くの共通点が見られることが明らかとなった。

(まつい いずみ／明星大学／明星大学通信制大学院博士後期課程)

<sup>1</sup> Alten Michèle, *Un siècle d'enseignement musical à l'école primaire*. In: *Vingtième Siècle, revue d'histoire*, n°55, juillet-septembre 1997. p. 3; doi : <https://doi.org/10.3406/xxs.1997.3659>

<sup>2</sup> Ibid.,p.3

<sup>3</sup> France, Ministère de l'Instruction publique, *Rapports sur l'enseignement du chant dans les écoles primaires*, Paris, Imprimerie nationale, 1881.

<sup>4</sup> A. Lavignac, *Notions scolaires de musique*, Henry Lemoine & Cie, 1905.

<sup>5</sup> ジャック＝ダルクローズ著、山本昌男訳『リズムと音楽と教育』全音出版社、2003年、P.17

<sup>6</sup> 同上書、p.118

\* \* \*

【基調提案】 13：50～15：20

「理論と実践をつなぐ質的研究方法の検討——音と動きの関係性をめぐって——」

企画者 丹原要

今回の研究例会における「基調提案」では、単なる研究内容の共有にとどまらず、その研究に取り組むに至った動機や、研究に対する熱意、考えの軸といった側面まで共有できる時間としたいと考えている。

「基調提案」の内容は、① Excel を用いた方法、② ELAN を用いた方法、③ QDA の原理を用いた方法、という三つのアプローチから構成されている。

まず①・②について説明を受けた後、全体での議論の時間を設ける。続いて③の説明を受け、同様に議論の時間を設ける予定である。

また、事前にアンケート調査を実施し、その結果を「基調提案」に反映させることで、参加者の関心や課題意識を踏まえた議論につなげたいと考えている。アンケートフォームは、下部に掲載の QR コードからアクセスできるので、ぜひご協力いただきたい。事後にもアンケート調査を行い、「基調提案」によってどの程度内容が共有されたかを可視化したいと考えている。

この「基調提案」の場が、アカデミックな熱意に支えられた活発な議論の場となり、参加者一人ひとりがそれぞれの立場から自由に発言できるコミュニケーションの場となることを願っている。企画の意図にご理解をいただき、「基調提案」を快く引き受けてくださった寺井氏に、心より感謝申し上げたい。

(たんばら かなめ／九州大谷短期大学)

提案者 寺井郁子

「音」と「動き」の連関を扱う研究において、時間・空間・エネルギーのうち、エネルギーの増減を二次元の紙面上で立証することや、三者の相互関係についての理論を打ち立てる難しさがある。音楽の流れの中で、人間から発せられる動きがどのように推移するのか、「音」と「動き」のエネルギーの起伏について研究する方法を探索してきた。

ここ数年、マティス・リュシィのアナクルーシス理論を応用して実践を行い、その有効性を示す研究と、フレーズ感覚に関する実践から、その形成過程の仮説モデルを導く研究を行った。本例会では、その中で用いた3つの研究方法を提案する。1つ目は、Excelに表現行動を記述したのちに、音楽との関連において動きを焦点化して、楽譜と表現行動を一覧にする方法、2つ目は、動画解析ソフトELANを通して、音の流れと人の動きを複眼的に分析する方法、3つ目は、QDA（質的データ分析）の原理により、フレーズ感覚の習得について、専門家による評価記述と学習者による語りを関連づけて結論を導く方法である。

(てらい いくこ／中部大学)

< 事前アンケートのお願い >

アンケートの結果を、「基調提案」の内容に反映させたいと考えています。無記名のごく簡単なアンケートですので、ぜひご協力頂きますようお願いいたします。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfuf28nO9N130vQB6ynOq8eJoDbNbSldTsdwGDs77nqTniQNg/viewform>



【アンケート】